

祈りの生活を最大限に活かす

## エフェソ6:18-20

まず、今日皆さんにメッセージを語る機会を与えてくださったダン牧師に感謝します。私の誕生日にこうしてみことばをお分かちすることができるのは、特別な祝福です。もともと、土曜礼拝と同じメッセージを語ろうと思っていたのですが、同じ聖書箇所からまったく別のメッセージを用意することにしました。ですから、昨日の礼拝に来た方も、同じメッセージではないのでご安心ください。今日は、祈りについてお話したいと思います。祈りについてお話するのですから、まず祈ってからはじめましょう。

エフェソ6:18-20はこう語ります。「6:18 どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。6:19 また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。6:20 わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。」この箇所は、10節からの続きです。11節で、パウロは信徒たちに神の武具を身に着けなさいと勧めます。神は武具をいくつ与えてくださったのでしょうか。土曜礼拝に来ている方は答えがわかるでしょう。答えは6つです。神は6つの武具を与えてくださいました。これらがすべて揃って、武具が完成します。その6つとは、

- 真理の帯
- 正義の胸当て
- 平和の履物
- 信仰の盾
- 救いの兜
- 霊の剣

パウロは、ローマ兵の武具にたとえて信徒たちにわかりやすく語り、霊の戦いに備える必要性を教えました。また、勝利を得るために頼れる守りを神が備えてくださったことも教えます。興味深いことに、この章はここで終わりません。パウロがここで書くのを止めても、私たち読み手は神が与えてくださった武具について考え、力づけられたことでしょう。平和の履物を取り上げれば、いろんな話ができます。信仰の盾や霊の剣のことを考えたり話したりするのもなかなかいいものです。では、なぜパウロはここで止めなかったのでしょうか。なぜ、優れた武具から祈りへと話題を移したのでしょうか。

それは、もうひとつだけなことを教えたかったからです。祈りの大切さです。すべての武具を着けるのは感心なことですが、そこに問題がひとつあります。武具を着けているだけなら不十分なのです。神の武具は守りという大きな役割を果たします。それはすばらしいことです。私たちは皆、敵からの守りが必要です。しかし、戦いに勝とうと思えば、守り以外にも必要なものがあります。戦いは守備だけでなく攻撃も含まれます。スポーツの世界では、「守備が勝利の決め手」と言われます。基本的にはこの言葉に賛成ですが、点も取れなければなりません。得点なしに優勝できるスポーツなど聞いたことがありません。戦いでは、攻撃もできなければならないのです。

戦いでは攻撃できなければならないだけでなく、その力も必要です。先ほど言ったように、武具は守備に優れていますが、力を発揮するには向いていません。たとえを使って説明してみましよう。今日ここにおられる皆さんは、アメフトを見たことがありますか。アメリカに住んでいると、アメフトの試合を見る機会がたくさんあります。試合中、選手がボールを持って走る場面がよくあります。そういう選手はたいてい体格も良く強いので、ディフェンスの選手ひとりではタックルして止められないのです。タックルを決めようとしがみつくと4-5人の選手をひきずったまま走る選手を見たこともあります。そういうシーンを見たことのない人も多いのではないかと思ったので、動画をお見せします。私の言っていることがおわかりいただけるでしょう。(動画再生)アメフトは激しいぶつかり合いのあるスポーツです。選手は全員ヘルメットやプロテクターなどの防具を身に着けます。けれども、動画でおわかりいただけるように、防具を着けているだけではいけません。頭から足の先まで守られていても、何かが欠けています。それは、試合を戦う力です。

私たちに必要なのは祈りです。祈りは、神と私たちとの接点だからです。神との接点が、戦いに必要な力を私たちに与えてくれます。神によって力づけられることで、私たちは霊の戦いに勝利することができるのです。

では皆さんにお聞きします。皆さんの祈りの生活はいかがですか。しっかりと安定していると思いますか。ある程度安定しているが、努力の余地はあると思いますか。祈りの生活なんてないも同然ですか。今どのような状態だったとしても、今日のメッセージはあなたに向けられたものです。

パウロはエフェソの教会に、祈らなければならないと語っただけではありません。実生活に役立つ祈りをする方法についても教えました。そして、**2000年**経った今も、その教えは私たちにとってためになるものです。パウロは、**18節**からこれについて説明し始めます。

説明がわかりやすいかどうかであらゆる結果が違ってきます。皆さんは、イケアやニトリで家具を購入したことがありますか。私たち家族はこういった店から何度か物を買ったことがあります。ちゃんと説明書がついているのでとても助かります。箱を開けると部品がたくさん入っていて、説明書なしには組み立てるのがずいぶんややこしいでしょう。説明書なしに組立作業をしたら、本棚なのに棚がないというような結果になるかもしれません。説明書自体がわかりにくい場合ももちろんありますが、たいしては役に立ちます。

こういった店と同様に、パウロも祈りについて明確な指示を与え、私たちに大いに助けてくれます。それは、私たちが力を見出すためです。激しい戦いで勝利を手にするには、その力が必要なのです。パウロの教えには、**3つの**ステップがあります。

**ステップ1:** 神とのつながりを切ってはならない。

パウロが「祈りの頻度」をよく取り上げていたのは、興味深い点です。今日の聖書箇所では、「どのような時にも祈り」とありましたが、他の箇所ではこのように語ります。

- フィリピ**4:6**「何事につけ、・・・求めているものを神に打ち明けなさい。」
- コロサイ**4:2**「ひたすら祈りなさい。」
- テサロニケ第一**5:7**「絶えず祈りなさい。」

パウロにとって、これは単なる手紙の題材ではなく、彼自身の生活の一部でした。パウロは、自分自身が実行していないことを人に教えたりはしませんでした。では、「どのような時にも祈る」のはどうすればできるのでしょうか。それを知るために、まずこの言葉の意味を明確にしましょう。

- どのような時にも祈るとは、常に神を意識すること。
- 神のご臨在を常に認めつつ、日常生活を営むこと。

つまり、絶えず祈るとは、神の視点で物事を見るということです。傷を見たら神に癒しを求め、問題に気づいたら神に解決を求めるのです。生活全般において、神に頼ることです。絶えず祈るとは、ずっと祈っているという意味ではありません。私たちが他の人とも話さなければならないことを、神はご存知です。祈り心を持つということです。絶えず祈るとは、いつでもふと立ち止まったなら神と話ができるという認識です。それは、「主よ、私のもとに来てください」と言う必要のない生き方です。なぜなら、主のご臨在から片時も離れていないからです。

**ステップ2:** お願いだけで終わらせない。

「祈り、願い求め」という短い一節で、祈りにはいろいろな形があることをパウロは示します。願い、とりなし、感謝、賛美、称賛、祝福、嘆願、叫び、告白、などはすべて祈りのかたちです。ひとつの祈りのかたちにばかりとらわれると、祝福を逃してしまいます。神に願い事をするだけに留まるなら、神への愛や感謝を表す祝福や、困っている兄弟姉妹のために祈る喜びは味わえません。賛美は、サタンに打ち勝つ偉大な武器であることを、皆さんご存知でしたか。神は「イスラエルの賛美を住まいとしておられます」と聖書は語ります。ですから、何か困ったことがあって神に介入していただきたいと思うなら、たいへんな状況の中で神を賛美しましょう。そうすれば、神があらわれてくださるでしょう。私は、「**Blessed Be Your Name**」（主の御名はほめたたえられよ）という賛美が大好きです。その歌詞にこういう一節があります。「主の御名はほめたたえられよ 苦しみの道でも ささげることに痛みが伴っても 主の御名はほめたたえられよ」今日私は皆さんにお勧めします。あらゆる祈りのかたちを今から実践してください。

- ❖ 必要を備えてくださいと神にお願いする時間を取りましょう。

- ❖ 神の祝福を感謝する時間を取りましょう。
- ❖ 神を賛美し、神のすばらしさをたたえる時間を取りましょう。
- ❖ 誰かのためにとりなす時間を取りましょう。
- ❖ 自分の罪を告白する時間を取りましょう。
- ❖ 心身の癒しを求める時間を取りましょう。
- ❖ 神のみこころにあなたの人生をゆだねる時間を取りましょう。

このステップを思い出すために、英単語の頭文字を取って**A.C.T.S.**というものがあります。これは、**Adoration**（賛美）、**Confession**（告白）、**Thanksgiving**（感謝）、**Supplication**（願い）です。

これらのステップを祈りに取り入れると、祈りの時間が増すだけでなく、祈りが深く濃い内容へと発展していくでしょう。それに加えて、祈った後の充実感を得ることもできます。

### Step 3: 目を覚まして根気よく。

根気よくは、辛抱強くとも言い換えられます。持続させるということです。ルカ**11:5-8**に登場する男性は、急な客人に出すパンをもらえるまで、しつこく隣人の家の戸をノックしつづけました。もうひとつ根気よさを表した話があります。それは、ルカ**18**章にある盲人の癒しの話ですが、私はこの話が好きです。では、ルカ**18:35-43**の話を読みましょう。

**18:35** イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。**18:36** 群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。**18:37** 「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、**18:38** 彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。**18:39** 先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。**18:40** イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。**18:41** 「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。**18:42** そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」**18:43** 盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

この盲人は、真剣に癒しを求めていました。彼はイエスに向かって叫びましたが、周囲の人々は彼を黙らせようとした。この人は黙ったのでしょうか。いいえ、さらに大声で叫びました。きっと最初は、普通の声でイエスと呼んだのだと思います。「イエス様、こちらです。イエス様。」けれども、人々に黙るように言われ、声を大きくしたのではないのでしょうか。「イエス様、こちらです！ イエス様！」イエスに気づいてもらうのがこの人の目標でしたから、イエスが立ち止まって望みをお尋ねになるまで、彼は叫びつづけました。その日、この盲人は目が見えるようになりました。根気強かったからです。この聖書箇所は、常に辛抱強く祈り続けることを私たちに教えてくれます。それが、私たちの祈りに神が求められることだからです。神は、あきらめずに根気よく祈る祈りに耳を傾けてくださいます。

では、目を覚ましているとはどういうことでしょうか。状況に注意を払っていなければ、賢明な祈りを根気よく続けることはできません。ペトロ第一**4:7**でペトロは次のように語ります。「思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。」私たちはこのペトロの訴えを忘れがちです。このみことばは、周囲のことに注意を払う信徒を表していると私は思います。こうすることで、実生活に役立つ祈りをするためです。皆さんにお尋ねします。

- あなたは家庭でどんなことが起こっているかご存知ですか。妻のことをわかっていますか。常に妻のために祈っていますか。妻の信仰が成長するように、神の祝福があるようにと祈っていますか。
- あなたは夫のために祈っていますか。すべての面において神のみこころにかなう男性になれるようにと祈っていますか。夫が正しい決断をできるように、家族の信仰をリードしていけるように祈っていますか。
- あなたは子どもたちのために祈っていますか。子どもたちの信仰を神が育んでくださるように祈っていますか。信仰の友が与えられるように、悪い影響が取り去られるように祈っていますか。神が子

どもたちを悪い者から守ってくださるよう祈っていますか。

• 友人や隣人についてはどうでしょう。周囲の人のことはどうでしょう。その人たちの救いを祈っていますか。誰かから困っていると聞いたら、祈るわと言うだけでしょか。それとも、本当に祈っていますか。

今週、私はこんな記事を読みました。「私の知り合いにこんな人がいた。彼の本棚には、ノートが何冊もある。そのノートには、長年の祈りの課題が綴られていた。祈りの課題に加え、その答えが書き留められているのである。この男性は、20年に渡ってこれを続けており、今ではノートは18冊目か19冊目だという。目を覚ましているとは、まさにこういうことである。」

最後に改めて、祈りが武具を支える力であることを申し上げます。祈りによって、私たちは信仰に堅く立つことができます。この中にも、祈りの生活が無味乾燥なものに感じている人もいます。それでも、がっかりしないでください。むしろ、これは過程なのだという真実を受け止めて、元気を出してほしいと思います。祈りの生活を養うには、時間も労力もかかります。祈ろうとしても、初めはぎこちなく感じることもあるでしょう。残念なことに、多くのクリスチャンが勝利を手にしていない理由がここにあります。ぎこちない祈りの段階を乗り越えられないのです。その段階を超えるたったひとつの方法は、祈ることです。神の前に静まり、願い事だけでなく自分の思いや考えを神に打ち明ける時間を取る必要があります。祈りを発展させるには、祈らなければなりません。神はあなたを知りたいと願っておられます。一対一の結びつきを求めておられます。時間を取って、神を知りましょう。今日からすぐ、始めましょう。